



国指定重要無形民俗文化財

猪俣の百八燈

猪俣の百八燈は、400年以上続く盆祭り、毎年8月15日に堂前山の尾根に築かれた百八基の塚に火をともし伝統行事です。

猪俣地区では、平安から鎌倉時代にかけて武蔵国で勢力をはせた武蔵七党のひとつ、猪俣党の棟梁、猪俣小平六範綱とその一族の霊を慰めるためと伝えられています。

行事は、猪俣地内の満6歳から満18歳までの子どもたちが、親方・次親方・後見・若衆組・子供組に分かれて行事の一切を取りしきり、大人の介入がないのが特色です。

当日は、堂前山に並ぶ百八の塚に火が灯されると、幻想的な光景が浮かび上がりました。

